トヨクモのkintone連携サービス

導入事例集

教育・学習支援 編

CASE
01 | 学校法人 創志学園 環太平洋大学様

Toyokumo kintoneApp認証で250人のデータ管理をセキュアにワンクリックで可能に

学校法人 創志学園 環太平洋大学

● 業務内容
幼児教育、中・高学外教育、高校教育、専門学校教育、大学教育、公益活動

● この記事で使われているトヨクモ製品
フォームブリッジ、kViewer、kMailer

導入背景　2019年にサポートが終了したデヂエからkintoneに移行。アカウント管理の方法が課題に

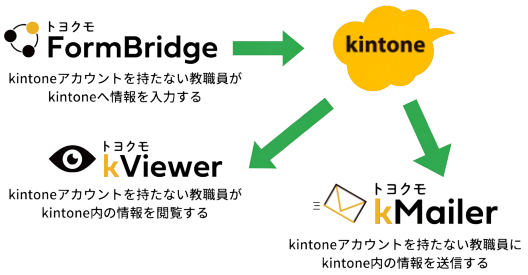
当大学では、2019 年にサポートが終了したデヂエから kintone への移行を検討していました。kintone に移行することでこれまで Excel で管理していた教職員の立替請求の振込先口座登録と振替休日の管理を kintone で一元管理でき、多くの手間を削減できると考えたのです。また、リアルタイムに有給消化の状況などを確認でき、利便性も大幅に向上する想定でした。しかし、その一方で、kintone のライセンスが課題としてありました。これらの作業のためだけに教員 250 人のユーザーを作るのは費用対効果の面で現実的ではないというのが正直なところです。そこで外部ユーザーに kintone 内の情報を公開するためのプラグインを探していたところ、トヨクモ製品の導入に繋がりました。

学校法人 創志学園 環太平洋大学　情報システム課　大賀 吉功氏

導入効果　トヨクモ製品で大幅にコストカットを実現

当大学では、もともと利用していたデヂエのサポートが終了となった時に、デヂエの料金体系と同様にライセンス契約で運用できる製品を探していました。しかし、kintone 製品の導入だけではユーザーごとにライセンス費用がかかってしまい、コスト面から現実的ではありません。そこでトヨクモ製品のフォームブリッジと kViewer に着目しました。

フォームブリッジを使うことで kintone のアカウントを持たないユーザーが情報を登録し、kViewer で kintone のアカウントを持たないユーザーが情報を参照できるようになります。これにより従来想定していた kintone 単体の導入に比べ、大幅なコストカットを実現できました。



導入効果　Toyokumo kintoneApp認証機能で登録の手間や入力漏れを軽減

これまで ID・パスワード形式の認証方法を利用してユーザー管理を行っていましたが、教職員の約 250 名分を登録していたため、入退職時の情報登録と削除に膨大な手間と時間がかかっていました。Toyokumo kintoneApp 認証機能は、マスタとなる 1 つの kintone に情報を入力するだけで自動的に各フォームとビューに反映されるので、入力の手間が大幅に削減できます。また、Google のメールアドレスを使えるため、シングルサインオンの仕組みも実現できました。

Toyokumo kintoneApp認証で管理するマスタ情報のアプリ画面

導入効果　Toyokumo kintoneApp認証機能でデータの一元化を目指す

当大学では「Toyokumo kintoneApp 認証」の登録は、特に説明の場を設けるなどの手間はかけず、各自行ってもらう形としています。Toyokumo kintoneApp 認証では Google のメールアドレスを使って、シングルサインオン認証を行っているため、1 回の Google へのログインで必要な情報を全て参照できます。

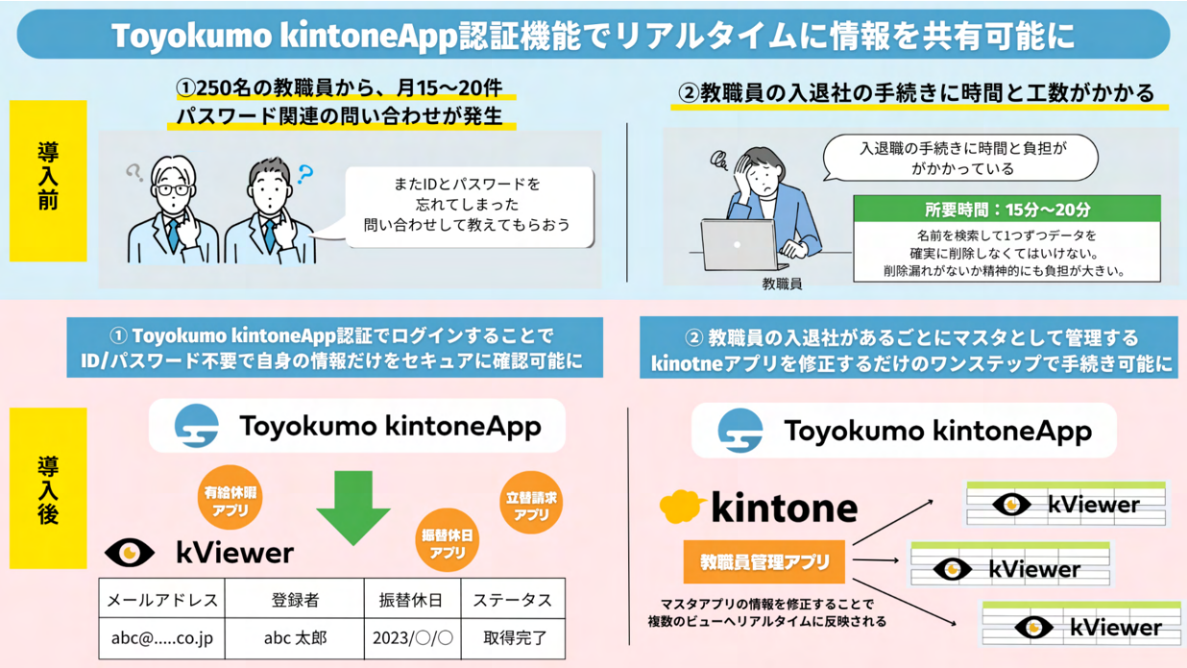
バラバラに管理していた情報をまとめて管理が可能に

トヨクモ

感覚的に使える操作性の高さから、各ユーザーが不明点をを自分で解消できるようになったのも、トヨクモ製品を重宝する理由の一つです。また、今後は学生の情報も kintone 上で管理し、各職員の立場や所属部署によって開示内容に制限をかける形で運用することを検討しています。kintone 上でデータを管理することで、セキュアにデータの一元化を実現していきたいと考えています。

導入効果　作業の効率化に加え担当者の心理的ストレスの軽減に成功

ID・パスワードによる認証方法を採用していた頃は、平均してひと月に 10 ～ 20 件ほどログイン方法や ID・パスワードについての問い合わせがありました。しかし、Toyokumo kintoneApp 認証を導入後は大きく問い合わせが減り、担当者のストレスを軽減できました。また、教職員の入退職に合わせたデータ管理作業は、本来とにかく手間がかかる作業です。そのうえ、個人の情報を扱う緊張感を伴った作業となるため、担当者にとって精神的に大きな負担となっていました。それがワンクリックで削除できることになり、ストレスフリーで作業を行えるようになりました。



ご担当者さまのコメント

kintone とトヨクモ製品の組み合わせは大きな可能性を秘めていると感じます。その中でも Toyokumo kintoneApp 認証はユーザー側にとっても利便性が高く、管理側にとっては安全に情報を管理できる点が非常に魅力です。今後はより多くの学生を対象に活用範囲を広げていきたいと考えています。

CASE
02 ｜ 株式会社アルファコーポレーション様

施設長が多数のkintoneデータを確認する手間を省くためkViewerダッシュボードを導入

株式会社アルファコーポレーション

● 業務内容
保育所の開設・運営や経営指導、
チャイルドケアセンター、家事代行、
ベビーシッターサービスなど

● この記事で使われているトヨクモ製品
フォームブリッジ、kViewer、
プリントクリエイター、kBackup

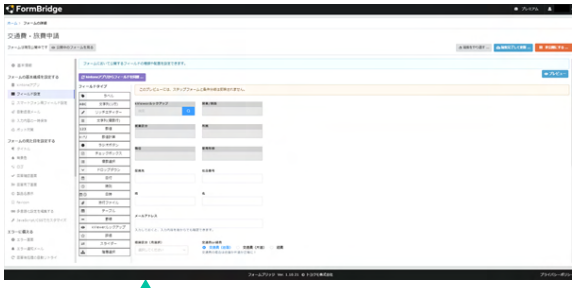
導入背景　自社で運用するデータベースからkintoneに乗り換え。アカウントの運用が課題に

10 数年前にシステムを構築し、オンプレミスで運用していました。しかし、その後家事代行をはじめ様々なサービスを開始したことにより、これまでのオンプレミス運用では拡張に限界を感じました。そこで、kintone の導入を初めて検討したのです。しかし、アルファコーポレーションの従業員は 500 人を超えるため、すべてのユーザーを kintone で管理することは予算的には厳しい状況でした。そこで、トヨクモのフォームブリッジや kVeiwer の導入の検討に至りました。

導入効果　kintone契約数は10ライセンス。フォームブリッジ導入でkintoneのデータ登録が500名に拡張

しかし、最初は当時のシステム担当者だけが kintone を操作しており、データの入力もすべてその担当者が行っていました 。本来は交通費などの経費精算やシフトの申請などはスタッフ本人に入力してもらう方が遥かに効率的です。しかし、アルファコーポレーションでは 500 人以上のスタッフが働いており、全員分の kintone アカウントを契約する予算はかけられませんでした。

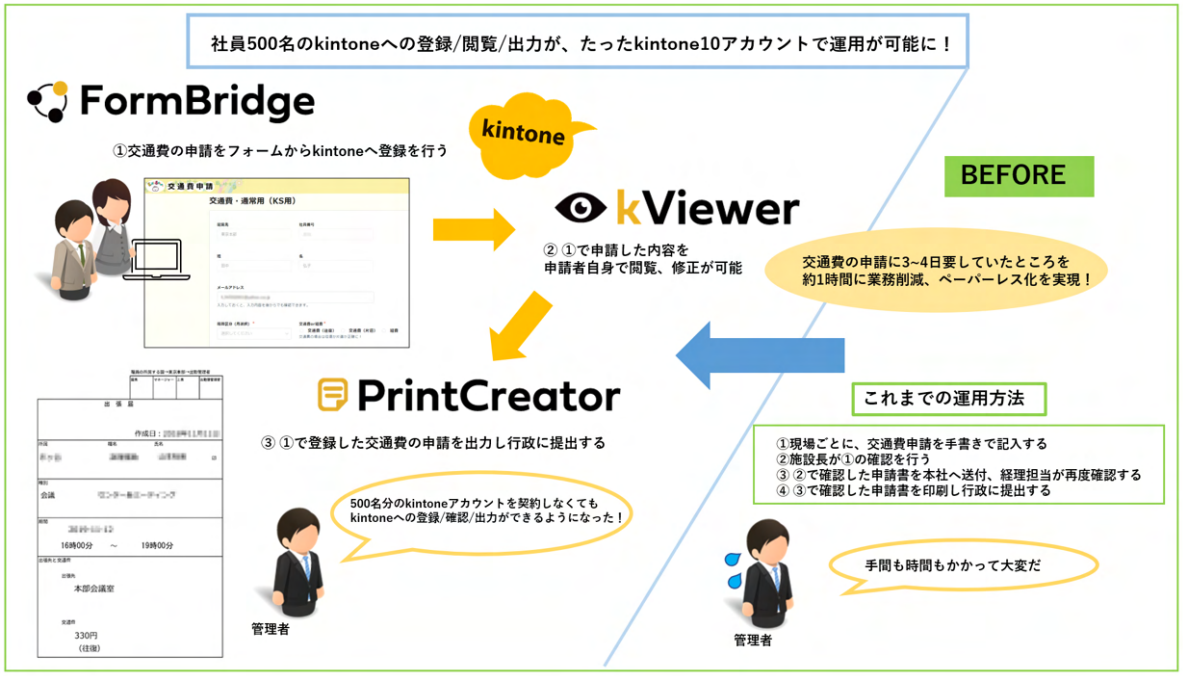
そこでアンケート形式で情報登録ができるフォームブリッジを利用しました。これにより少ないライセンスで 500 人以上のスタッフが自ら情報の入力・登録をすることが可能となります。
また、ユーザーとしては情報の登録もできたら、今度は自分が登録した情報の参照も行いたくなってくるものです。その機能も kViewer を導入することで、登録した情報の履歴を確認できるようにしました。結果として少ないライセンスで 500 名以上の方が使える効率的なシステム導入を実現できました。



多くのスタッフが自分で交通費の申請を
できるようにフォームブリッジを活用しています。

導入効果　手作業の業務を自動化、効率的なシステム運用を可能に

アルファコーポレーションでは認可保育所も手がけており、行政に提出する資料が多く存在します。これらを kintone で一元化し、手作業を自動化することでこれまで 3 日程度掛かっていた経費精算を 3 ～ 4 時間でできるまでに短縮することに成功しました。また、kViewer を使用することで、オンライン社内図書館を開設しました。スタッフが読みたい本を発注し、数日後に本が手元に届きます。メンター制度では面談スケジュールやヒアリング内容を「フォームブリッジ」で確認、収集できるようにしています。このように多くの業務をシステム化することで、大幅な業務効率化と生産性向上を実現したのです。

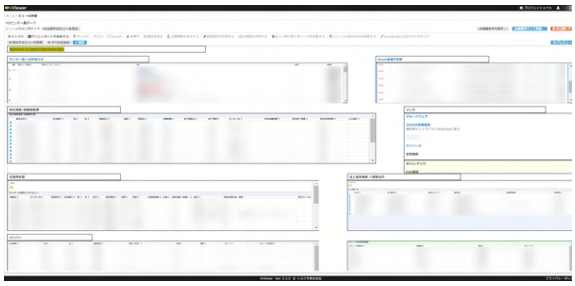


トヨクモ製品を組み合わせて申請システムや図書館を実現しました。

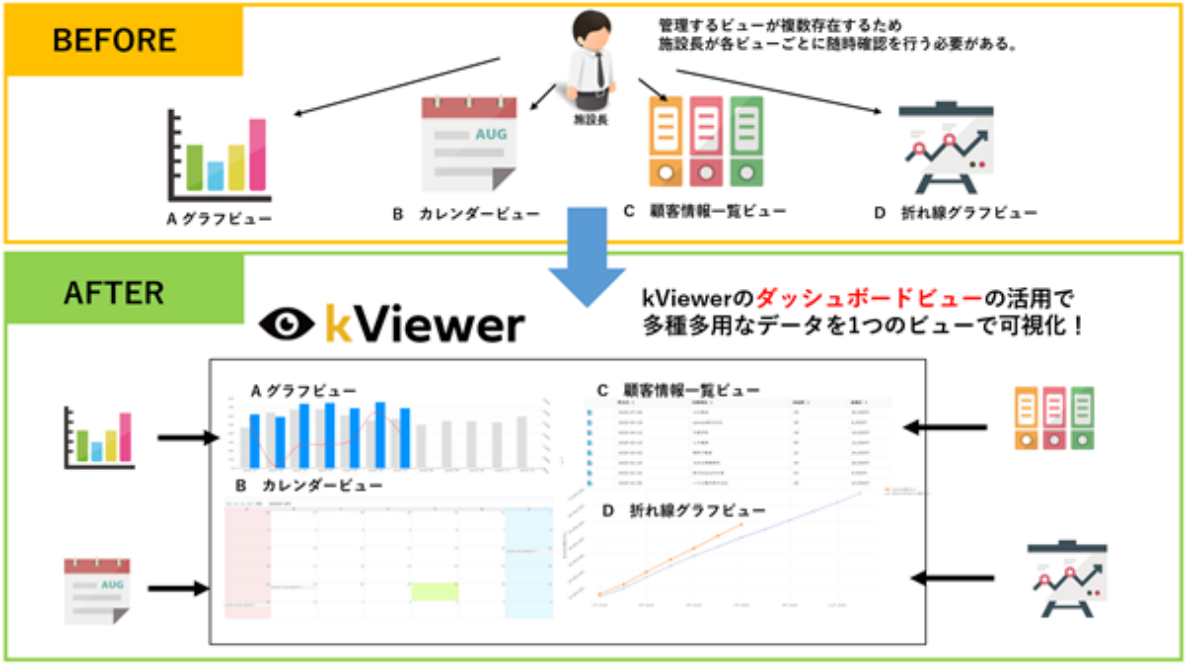
トヨクモ

導入効果　kViewer ダッシュボードで施設の情報をまとめて確認

施設長は常日頃から様々な情報を見聞きしなければなりません。例えば、現場の人がフォームブリッジに入力した交通費やシフトの管理、会議の予定、就業報告など、目を通さなければならない情報は多岐にわたります。そこで導入したのが、kViewer のダッシュボード機能です。ダッシュボード機能では複数のビューを 1 画面にまとめて表示でき、様々な情報をリアルタイムに確認、分析できるのが特徴です。この機能を用いて、施設長がログインすると「施設長へのお知らせ」「Zoom 会議予定」「前日連絡 / 就業報告書」など の情報を一覧表示するようにしました。その結果、目を通すべき情報を一括で閲覧でき、意識を散らさずに確認できるようになったと好評です。



「kViewer ダッシュボード」の編集画面です。



ご担当者さまのコメント

これまでは kintone を社内で使っていましたが、今後は請求書やデイケアのスケジュール管理など、社外の方との活用も進めていきたいと考えています。既存システムとのデータベースの併用も、今後 1 年半以内には kintone を中心としたシステムに切り替えていく予定です。

トヨクモ

CASE
03 | 株式会社知財コーポレーション様

採用受付から応募者のステータス管理、合否通知メールまでの自動化を可能に

株式会社知財コーポレーション

● 業務内容
特許翻訳、特許・意匠含む出願用図面作成、
特許調査、海外出願事務代行、
知財アカデミー等

● この記事で使われているトヨクモ製品
フォームブリッジ、kMailer

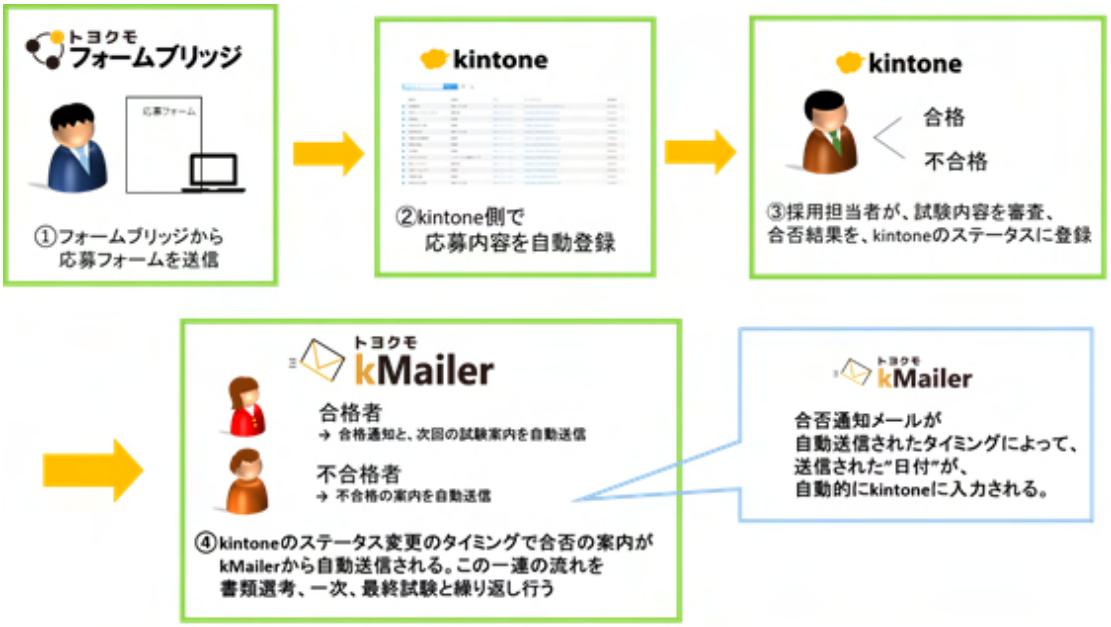
導入背景　採用試験の応募から登録、合否通知までの自動化を実現したい

部署で新たに翻訳者と校正者を採用することになった時のことです。採用は、応募者が応募フォームに入力し、他社翻訳サービス (Phrase) を通じて採用試験を受け、採用担当者が合否を判断、その結果を応募者に通知するという流れを考えていました。その中で、いかに効率的に採用に関わる一連の工程を自動化するかが課題でした。例えば、応募フォームに入力される情報が社内の作業を介さずにどこかに蓄積できないか、試験の合否に関する通知を自動でできないかなどです。同社内で相談したところ、株式会社ジョイソーを紹介してもらい、同社の紹介でトヨクモのフォームブリッジと、kMailer を導入し、自動化の実現を目指すことになりました。

(右から)知財コーポレーション小野様、明神様。

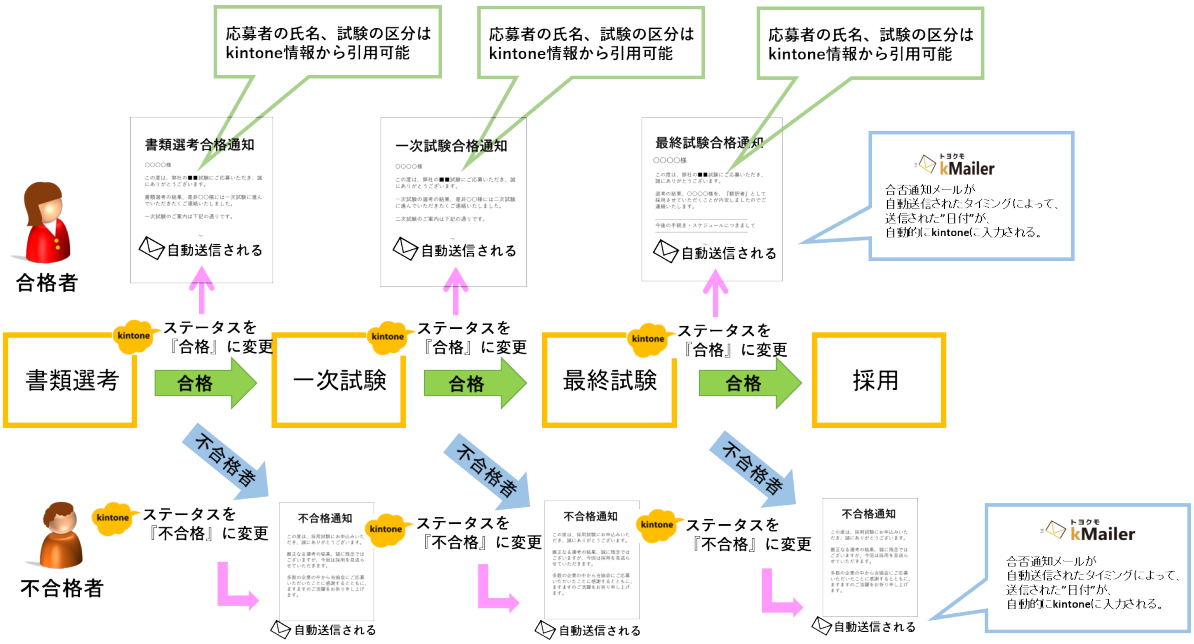
導入効果　フォームブリッジとkMailerを活用し、採用フローを自動化させることに成功

採用活動は以下の 7 ステップに分けられ、これらを如何に効率化するかが課題でした。



一連の流れはこのような形

上記ステップを最大限効率化するため、フォームブリッジを使用することで①〜②の情報登録の流れを自動化、④のメールの送信では、kMailer を活用することで自動化することに成功しました。特に kMailer では合格を伝えるテンプレート、不合格を伝えるテンプレートなどテンプレートを予め作成しておくことで、毎回メールの文言を考える手間を削減しています。これにより、採用担当者は合否の入力など、採用活動の根幹に関わる作業にのみ集中できるようになりました。



設定内容の詳細は、このような流れ

トヨクモ

導入効果　応募者への合否メッセージを自動送信できるようになった

kMailer を使用することで、kintone 内のデータがステータス変更されたタイミングで、応募者への合否メッセージを自動送信できるようになりました。メール送信時に kintone 内に保存された各応募者の合否情報が自動で引用されるため、各応募者に対しての合否連絡を手動で行う必要がなくなり、業務品質の向上と業務効率化を同時に実現できました。